

特徴的な徴候が診断に，超音波による動的観察が治療に有用であった SMA 症候群の 1 例

いた	くら	よし	ゆき	か	がわ	こう	じ	やま	もと	よし	たか
板	倉	由	幸	香	川	幸	司	山	本	悦	孝
やま	した	のり	つぐ	かく	た	えり	な	はな	おか	たく	や
山	下	詔	嗣	角	田	恵	理奈	花	岡	拓	哉
さね	とう	ひろ	み	ふじ	さわ	とも	お	ち	ぬき	だい	すけ
實	藤	宏	美	藤	澤	智	雄	千	貫	大	介
くし	やま	よし	のり	うち	だ		やすし				
串	山	義	則	内	田		靖				

キーワード：SMA 症候群，上腸間膜動脈症候群，体位変換，腹部超音波検査

要 旨

SMA 症候群は十二指腸水平脚が SMA と Ao に圧迫され通過障害を来たす稀な疾患で，胃腸炎などとして見過ごされる場合も多く，治療法について未だ一定の見解が得られていない。症例は52歳男性，頻回の嘔吐を主訴に受診。胃拡張で入院歴あり。体型は痩せ型。腹部単純写真，腹部単純 CT の特徴的な画像所見から本症と診断した。本症の主な治療は胃管による減圧，脱水と電解質の補正，食後の腹臥位または左側臥位の保持とされているが，この体位が有効である根拠を示した報告はない。自験例において超音波で動的観察を行った結果，体位変換により SMA は重力に従って移動し，同時に Ao-SMA distance は大きく変化した。これらを詳細に検討した結果，「有効な体位は個体差があり，SMA が Ao の左側に位置する場合は左側臥位が有効，右側に位置する場合は右側臥位が有効である」との独自の新たな見解を見出し，本見解を励行することで自験例は症状改善し，再発なく経過した。

はじめに

上腸間膜動脈症候群 (superior mesenteric artery syndrome, 以下 SMA 症候群) は十二指腸の水平脚 (3rd Portion) が前方からは上腸間

膜動脈 (以下 SMA)，後方からは腹部大動脈 (以下 Ao) に圧迫され通過障害を来し，周期性嘔吐，上腹部不快感，腹痛，食欲不振などを生じる稀な疾患で，急性胃拡張，胃腸炎，神経性食思不振症などとして見過ごされる場合も多く，また治療法について未だ一定の見解が得られていない。今回，我々は特徴的な徴候から診断に至り，超音波による real time での動的観察が治療に有